

復興応援をこれからも

2014年度の「岩手ボランティアバス」は 仮設住宅での交流を中心に活動します

仮設住宅で住んでおられるお母さんたちと、大阪名物「たこ焼き」を作りながら、いわて生協さんと一緒に“ふれあいサロン”を行います。



お上手ですね～

大槌町第9仮設住宅での様子
（2013年10月
職員ボランティア第7陣）

◀「2014年度第3回岩手ボランティアバス」の申し込みは2ページをご覧ください。



550食の鴨鍋を販売

3.11from KANSAI 2014
～いま、ともに～

3月9日 新梅田シェイ

今年も開催された復興応援イベントにパルコプも参加、組合員さんが「岩手鴨鍋」などを出展、約7万8千円の売り上げと募金は東北支援募金にさせていただきました。「ずっとボラの会」も東北復興応援グッズを販売しました。
（「ずっとボラの会」今後の活動は2ページ）

東日本大震災が起こった3月11日を前に、大阪で復興を応援するイベントが開かれていました。パルコプでも、これからも応援していこうという気持ちを寄せ合いました。

東日本大震災・被災3年企画 パル・よど・なら ボランティア参加者のつどい

3月8日 松下IMPホール（京橋）

3生協で251名（ボランティア139名、役職員112名）の参加があり、岩手大学名誉教授の齋藤徳美さんに「岩手沿岸の津波災害の実態と復興の課題」と題して講演いただきました。ボランティアバス参加者を代表して3人の組合員さんの報告もありました。（講演内容は2ページ）



松林さん
（パル参加者代表）



山田さん
（よどがわ参加者代表）



保坂さん
（なら参加者代表）

一人の1回のボランティアは微力ですが、行くことで心の傷が少しでも治ることにつながるボランティアになっていると思います。



NO.50

（岩手県遠野市に
常駐するパルコプ
ボランティア事務局・
林さんより）



被災者に寄り添い、絆をつなげる支援活動を
被災から4年目に入りました。今年の3・11当日は、岩手県大槌町から釜石市そして陸前高田市を回りました。各地でご家族が花束をたずさえ、生かされた者として、鎮魂と復興の誓いが交わされていました。被災地ではまだ多くの課題があります。住まいの問題では、復興公営住宅の建設は、計画3万戸（東北3県計）に対し、完成は約1,000戸でわずか3%に留まっています。逆にこれからは、仮住まいから新たな住まいへの引越しが始まり、今の仮設住宅の統廃合も始まるでしょう。その中で、いわて生協さんが地元社会福祉協議会や仮設住宅支援員さんたちと連携して続けておられる「ふれあいサロン」で、おしゃべりと趣味の仲間づくりがますます必要になってきています。

同時に持続的な復興には、人がその街で暮らすためには何より、生業（なりわい）の継続です。大阪の地で行えることとしても、「ずっとボラの会」の復興応援グッズの購入をはじめ、東北の生産物を買っていただく、引き続き支援募金へのご協力をよりしくお願いします。

大槌町で新たに建てられた復興公営住宅